

事業報告

<研修名>

外部人材を活用した地域プログラム開発事業 「臼杵市とのプログラム協同実施」

<開催日時>

令和元年11月23日（土・祝） 9：10～15：00

<参加人数>

各市町村からの参加者：9名（4市町村）／ 体験活動に参加した小学生：24名
（臼杵市立川登小全校児童）

<研修趣旨>

地域学校協働活動を推進し、地域における子どもの学びの充実を図るため、民間企業・団体等を中心とした、多様な経験や技能をもつ外部人材を活用した、特色・魅力のある教育プログラムの開発・企画・提示や情報の提供を行うことにより、広域・多機能型「協育」ネットワークの拡大・充実と支援者のスキルアップに向けた支援を行う。

今回は、臼杵市野津町川登地区に古くから伝わり、小学校行事として実施される「川登和紙」の紙漉き体験をとおして、各市町村に伝わる伝統号芸の保存と継承に焦点を当てた、新たな体験プログラムの企画及び普及への契機となるよう働きかける。

<研修内容>

臼杵市立川登小学校「親子ふれあい研修」における「川登紙漉き体験」の見学及び体験
【指導者】

- 川登紙漉き保存会
- 川登小学校PTA
- 臼杵市野津中央公民館 社会教育主事 長田 大輔 氏

午前中は、川登小学校のPTA「親子ふれあい研修」の様子を見学させていただきました。紙繊維をつなぐ糊となるあまはだ削りや、紙の原料となるこうぞをたたく様子を見学した後、実際に紙を漉く（小6生は自分の卒業証書となる）様子を見学しました。午後は長田社会教育主事の指導のもと、実際に紙を漉きました。その後、紙漉きまでの行程をビデオで視聴し、紙漉きの歴史や学校や地域との連携について説明がありました。

参加者からは、地域の伝統産業や伝統芸能を、大人と子ども、地域と学校と家庭が協働して、伝え、残し、体験させていく方策について考えたい、という声が多く聞かれました。

<当日の様子(写真)>

【市町村参加者による紙漉き体験】



野津中央公民館 長田社会教育主事による説明



<参加者感想>

- 「学校と地域が連携した体験プログラム」についての感想や意見
 - ◇保護者の協力、先生方の協力、そして地域の方々の協力が素晴らしかった。
 - ◇地域の特性・特産を活かした上での活動は大変素晴らしいと思った。自分の地域の伝統的行事等についても見直したいと思った。
 - ◇地域・家庭・学校が特産品・伝統などの面で取り組むとこんな素晴らしいものになるのかと驚いた。
 - ◇多くの大人が協力して、地域と学校で連携して子どもを大切に育てていこうという「協育」の精神がまさに活かされていると感じた。老若男女誰でも気軽に参加できる内容であることも素敵だと思った。
 - ◇思い出に残る卒業証書作りは、この学校ならではのすてきな取組だと感じた。今日までの準備が大変だったと思うが、ずっと続けてほしいと思った。
- 学校と地域・公民館が協働してプログラムを実施することについての感想や意見
 - ◇プログラムを考えることがすごく難しく、わからないことだらけだったが、いろいろと助けてもらい、子どもと毎週楽しく活動している。
 - ◇連携してプログラムを実施することは、子どもたちを社会全体で見守り、育てるという意味でもよい機会と思う。
 - ◇放課後や土日祝日、長期休暇の保護者の協力が、なかなか忙しくて得られないので、川登地区はうらやましかった。
 - ◇小学校のお祭りと中学校の文化祭、公民館まつりを一緒に開催している。核になるのは公民館なので振興局と協力してやっているが、三者の意見のとりまとめが大変なようである。